

令和7年度 外国語科・外国語活動実践・研究計画

部 員	○山崎麻絵、山田幹、石田智之、山崎泰明、奥田瑞季、丹理人
-----	------------------------------

1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践を通して、外国語・外国語活動における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 3年「ALPHABETたんけん隊！」では、アルファベットの形と読み方を一致させる4種類の活動から選んで遊ぶ活動を設定した。様々な活動の場を設定したことにより、子どもが主体的にアルファベットの文字と関わる姿へとつながった。そして、その文字を用いてゲームや製作など体験的な活動を行うことによって、アルファベットに対する認識を新たに獲得したり、そこで気付いたことを友達に伝えたりするなど、自らが学びを発信しながら他者と積極的に関わる姿が見られた。

しかし、他者と外国語を通して関わることや、個人の活動の嗜好を越えて協働的に学ぶまでにはさらなる工夫や改善が必要である。子どもが自分で自由に遊んでいるように見えている裏で、教師がいかに目的・場面・状況を準備し、知らず知らずのうちに子どもが外国語に慣れ親しんでいるという状態を作り上げるかを考えることで、よりねらいに近づくことができる。さらに、日常にさり気なく活動があり、自由に手に取って遊べる環境作りも、慣れ親しみの一手法と考える。

- ② 4年「Let's go to the world!ーWhat do you want?ー」では、単元ごとに学習内容が積み重なっていく従来型の学習計画ではなく、複数の単元を行き来しながら既習事項を使いこなし、英語で活動できる世界にどっぷりと浸かって、英語の音が溢れる授業展開を目指した。

ある子どもが単語のスペルを当てるゲームをしながら、2つの物の名前が同じアルファベットをもつことに気付き、最終的にはそれが何かを聞くしかないということを教師に伝えた。また、物の売買をする活動において、店員としてタイムセールを行った際には、予定にはない表現に触れ、その場で考えながらやり取りを続ける必要感を生むことにつながった。子どもにとって「想定外」の出来事を教師が仕掛け、スムーズに活動を進められる状況と、うまく事が進まない状況をどちらも作り出すことで、活動の中に疑問や驚き、困る状況が生み出され、それによって新しいことを習得する必要が生まれた。

しかしながら、既習表現を活用したり英語を駆使したりする活動には、場を捉えて助言したり考えさせたり、活用できている子どもを全体で共有し価値付けたりするなどの教師の働きかけが重要である。そのような場面を意図的に教師が設定する必要がある。

こうした成果と課題を踏まえ、外国語・外国語活動部は、自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 外国語科・外国語活動における自律した学習者の姿

- ① コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、必要な語句や表現、方法を選択・決定し、言語材料を駆使して伝える姿
- ② 外国語を用いて相互に理解し合う自然なやり取りの中で、相手に配慮しながら、伝えたいという強い思いをもって、活動上の困難を乗り越えるために既習表現を活用したり、新たな表現を使ったりしようとしながら、表現の幅を広げる姿

3 授業デザインの具体的な取組

- 伝えたいという強い思いを基に、子どもが使いたい表現や方法を選びながら、相手に伝わる実感を伴う体験を積み重ねる活動を工夫する。
- 表情豊かなやり取りなどのモデル提示や相手との関わりを通して、必要な表現の幅を広げていく学びのスタイルを構築する。

